

令和2年度 ひまわり園 事業報告

【 事業概要 】

令和2年度は、自律（自立）、友愛、社会参加の3つの支援を基本方針として、生活介護（定員24名）・就労継続支援B型（30名）・就労移行支援（6名）の3事業を基本に、居宅介護事業（ライフサポートをつなぐ）を加え、関係機関や団体、他事業所、地域との連携等を念頭にし、一人ひとりのニーズに合わせた福祉サービスの提供に努めました。

新型コロナウイルス感染防止の取り組みや、緊急事態宣言への対応等で、利用時間の短縮、全体会の中止、行事や販売活動の中止・延期・代替プログラムへの変更等、十分な運営ができない面も多々ありましたが、利用者、保護者、関係機関の協力もあり、感染者等はでませんでした。しかしながら、日々感染リスクに直面する事業で、メンタルヘルスの面では利用者、職員ともつらかった年度となりました。

その影響で、障がい福祉サービス事業の総収入は対前年比で2.2%減、支出では12.4%減となり、販売活動がほぼ中止状態でのB型事業での生産、販売活動につきましては、売上8,709千円で対前年度比48%の減、純売上は5,720千円、45%減となりました。

カフェ・サンフラワーにつきましても、休業や時間短縮など厳しい状況で、売上対前年度比58%の減となりました。

利用者支援につきましては、日々の健康チェック、消毒やマスク着用への支援、活動場面の分散や時間差など、感染防止に努めながら、利用者の強みを生かした支援（ストレングスの視点）を重視した実践に努めました。

感染リスク軽減のため、家庭、居宅介護、グループホーム等と協力し、情報共有や発信に努めました。

令和2年度 園出勤利用者と在宅での活動（電話や訪問による支援）の利用者数

	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
契約者数	72	72	72	71	71	70	69	69	69	69	69	70
園出勤	19	16	53	62	60	57	65	67	66	66	64	68
在宅	51	54	17	7	9	12	3	2	3	3	5	2
欠席	2	2	2	2	2	1	1	0	0	0	0	0

1 利用者状況

令和3年3月31日現在

項 目	内 容
平均年齢	40.8 歳（18 歳～71 歳）
職員数	20 名
利用者居住区別	東区1名 博多区1名 中央区7名 南区3名 城南区5名 早良区14名 西区38名

	市外 1 名 計 7 0 名		
事業別利用者数・定員	利用者（定員）	男 性	女 性
就労継続支援事業B型	3 6 （ 3 0 ）	1 9	1 7
就労移行	2 （ 6 ）	0	2
生活介護	3 2 （ 2 4 ）	1 5	1 7
合 計	7 0 （ 6 0 ）	3 4	3 6

2 年間開所日数及び利用者数（1日平均利用者数） ※在宅の支援を含む

就労継続支援事業B型	254 日	7,955 人（ 3 1 . 3 人）
就労移行支援事業	254 日	377 人（ 1 . 5 人）
生活介護	254 日	7,011 人（ 2 7 . 6 人）

3 事業別活動状況

（1）生活介護事業

生活介護事業における生産活動は自主製品（陶芸・木工・手芸）の製造販売に加えて利用者の強みを生かした、簡易等の仕事に取り組みました。感染防止のために在宅での活動を希望された利用者については、電話や訪問による支援を実施しました。

外部講師の指導による、月1回の創作活動（緊急事態宣言時は休止）やレクリエーションを実施して内容の充実を図りました。

戸外での活動として、西区橋本にお借りした畑での活動で、苗植えから収穫まで取り組みました。

（2）就労移行支援事業B型

パン・製菓の売上げは、販売会やイベントの中止で売上げを伸ばすことができませんでした。注文数が少ないときは、簡易作業等に取り組みました。カフェは、営業時間短縮や緊急事態宣言時の休業で、十分な経営ができませんでした。

生活介護同様、感染防止のために在宅での生活を希望する利用者には、課題を設定し、電話や訪問による支援を実施しました。

売上げ減少の中、できるだけ工賃が維持できるよう、工賃規程を見直しました。

就労継続B型事業平均工賃（月額）

平均工賃月額	作 業 内 容
8, 2 1 1 円 (H30 年度 15, 755 円) (R 元年度 19, 593 円)	パン・製菓製造 カフェ 簡易作業

（3）就労移行支援事業

製菓やカフェでの作業、ショップ等での販売活動を通し、意欲の向上やマナー、対人関係などが身につくよう取り組んでいます。ハローワークからの情報提供等も実施

しました。実習や見学の機会が設定できなかったこともあり、就労に結びつくことはできませんでした。

4 余暇支援

(1) クラブ活動

毎月1回外部から専門の講師を招き、文化的余暇活動（茶道、書道、創作）と体育的余暇活動（エアロビクス、ウォーキング、軽運動）を実施し、リフレッシュできるよう余暇に対する関心を高め充実を図りました。緊急事態宣言中は講師の来訪を止め、代替プログラムを実施しました。

(2) 休日余暇活動

感染防止のため、外出を減らし、事業所内でできる活動に限られました。緊急事態宣言時は休止となりました。

(3) イベントや招待行事等

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、阿古女祭、感謝デイを中止し、代替プログラムとして利用者向けの商品紹介、販売を実施しました。

5 健康管理と防火管理等

(1) 新型コロナウイルス感染防止のため、職員、利用者とも体温測定、健康チェック、館内消毒等取り組みました。

(2) 給食は外部業者に委託し、利用者の希望も取り入れた昼食を提供しました。委託業者とは定期的に会議をもち、リクエストメニュー、特別食などを検討しました。昼食時は感染防止のため作業班ごと時差で食堂に入り、席の間隔をとり、いただきました。

(3) 医療機関（マリン病院・なかにわメンタルクリニック）による健診を2回ずつ実施。また、胸部レントゲン検査、希望者への血液検査も実施しました。その結果を基に看護師による健康相談を行い、生活習慣病の予防に取り組みました。

(4) 防災、防犯に対する関心と避難行動の習慣化を意識づけるため避難訓練を2回実施しました。また、水害時を想定した、垂直避難の訓練を実施しました。

(5) 定期的に施設内の安全点検を行い、破損、危険箇所の早期発見と改善に取り組みました。

(6) ヒヤリ・ハット等の提出により職員間の情報の共有化を図り、危機管理への意識を高めました。

6 その他の取り組み等

(1) ふれあい旅行・班別外出

感染防止のため中止しました。

(2) 利用者代表者会（本人活動）

利用者10名による「代表者会」を毎月1回開催し、事業所内でのサービスに関する

る意見を出し合う機会を設けました。3月の「みんなの声を聞く会」は、代替プログラムとして「作業について」を話し合い、ポスター作製、掲示を行いました。

(3) 保護者会との連携

保護者会は中止となりましたが、保護者役員会はひまわり園内で実施できるよう、日程調整等を行いました。情報共有できるよう、連絡帳、電話、プリント配布などで連絡をおこないました。また、園庭の花壇の手入れのご協力いただきました。

(4) 職員研修

① 法人内研修

新任職員に対する研修や、虐待防止委員会による障がい者虐待防止に関する研修、委員会での研修等に参加しました。

② 施設外研修

育成会事業所協議会の研修や、知的障がい者福祉協会、県・市社協、市民間協の研修会に勤務経験や職務内容に応じて参加しました。また、会議等で研修報告をし、職員間の情報の共有化を図りました。

(5) 利用者送迎

毎日計4台の施設車で利用者の送迎を実施しました。30名の送迎を実施していますが、まだ送迎の希望者は多い状態です。

(6) ウェブの活用

法人と協力し、ウェブを使ったりリモートでの研修や委員会、会議などが実施できるよう、パソコン等環境を整備しました。

7 地域との交流

(1) 5月の地域懇談会は中止し、ひまわり園概要等の文書を送付しました。

(2) 施設見学や、大学、専門学校学生の実習等を受け入れ、障がい者への理解や啓発に努めました。(緊急事態宣言時は中止)

(3) 事業所内売店(ショップひまわり)にて、地域の方を対象にパンやクッキー等の製品を、開店時間を短縮し、販売しました。

地域老人会等への施設の貸し出し等は実施できませんでした。

8 苦情受付状況

保護者等からのご意見やご相談には、その都度話しをする機会を設けました。あわせて利用者との関わりや保護者、保護者会との情報交換等気軽に話せる環境の整備に努めました。苦情はありませんでした。

9 地域における公益的な取り組み

「ふくおかライフレスキュー事業」に参画しています。生計困難者等に対する支援の事例報告等の発信があり、職員に情報提供しました。ひまわり園として、サポーターの配置や実践はありませんが、今後の取り組み方も含めて検討しています。